

平成30年12月19日

「とびり3子ども食堂

」の視察について

氏名 笹川 博人

- 1 訪問日 平成30年12月16日(日) 15:00~20:00
- 2 会場 白新コミュニティハウス
- 3 対象

4 運営団体 とびり3子ども食堂

5 活動の概要

子どもの貧困(7人1人の割合)問題、子どもの食(孤食・祖食・子食・小食・団食・濃食・粉食)問題と貧困としての社会状況に起因。新潟青陵大学、新潟県立大学の学生有志が、昨年の10月11日1回の子ども食堂を白新コミュニティハウスにて開催している。地域住民・学生ボランティアが毎回10名程度参加し、寄付・食料・飲み物などの提供もあり、運営もスムーズである。調理はX2-2作りは電膳料の学生が担っており、衛生管理もマニュアルを作成して行っており、安全である。午後5時のオープン後(とびり4時間の準備)、6時の食事まで、運動・ゲーム等、遠征や学習支援をし、食事後も季節の合戦企画として「地域の子と家族」の団らんを通してこれからの場を提供している。初金は大人200円、小学生~高校生100円、就学費無料。参加者も除除、増加しており、当時はスタッフ、ボランティアを合わせて30名程度の参加であった。

6 活動にみえる「次世代育成」

学生主体で運営していることで、大人と子どものとびり気持ちはやはりとびりである。親と子と友達で中なり関係を築かせる話し相手、居心地の良さを保っている。会場の雰囲気も学生らしい若さで、居心地がよい。話のついでにも笑顔に溢れる学生たちの居場所として見守る機能している。支援工場の子どもが10年後には支援に子どもたちの活躍型の良工が見えてくる。「ボランティア1人のためは2人として任せ、ボランティア2人として気をつけていく」とのゆかりがあり、この良工を新しい学生に伝えていくことも次世代へつなげるための大切な要素である」との学生さんの思いが深く感じるところである。

7 今後に向けて

学生という事情から、毎月の定例開催や長期休暇の特別開催など、確実に実行することが難しいと、毎年新しい学生への引き継ぎがスムーズにいかならないなどの問題がある。運営に力を入れて中継者への関わりが不十分で、知らない意見の聴取が不足しており、気がかりな思いである。当日のお困りの方の反応を見ることが、とても学生さんには好意的で、意見をたくさん言われた。今の場所がいつまで使えるか、企画面でも興味を惹きつけることができ、ボランティアが今後増えてくれるか等々、色々不安もあるところを長く続けたらいいかな。

以上